

立志式 校長式辞

令和3年3月10日

皆さんおはようございます

佐野高等学校附属中学校立志式の開催にあたり、本校2年生の皆さんに祝意を表すために話をします。

ところで、皆さんが立志式を受けるのは、当然初めてのことですが、実は、私にとっても、教員として立志式に臨むのは初めてのことなのです。高校では、立志式はありませんので、立志式のイメージがなかなか沸きませんでした。

そこで、自分が中学2年生の時に参加した立志式が、どんなだったかを思い出すことにしました。今から、40数年前のことです。ちょうど、皆さんのお父さんやお母さんが生まれた時くらいの昔です。そして、当時の中学校の校長先生から、私たち生徒一人一人に、校長先生のお言葉を書いた短冊をいただいたことを思い出しました。もしかしたら、まだ家にあるかも知れないと思い、3日前の日曜日、県北の大田原市にある実家に帰り、探してきました。

見つかりました。これです。だいぶ痛んでいますが、今でも、当時の自分の部屋にかかっていました。なんて書いてあるでしょう。「無文句、作実力」と書いてあります。どんな意味だと思いませんか？ ネットで検索してみましたが、出てきませんでしたので、おそらく、校長先生が作られたオリジナルな言葉だったのではないかと思います。「文句を言わず、実力をつけろ」という意味でしょうか。新しい学習指導要領では、思考力、判断力、表現力を重視していますので、今、「文句を言わず」などと言ったら怒られそうですが、おそらく、「実力で勝負しろ」ということを校長先生なりのお言葉で表現されたのではないかと思います。



当時の私は、この「実力」という言葉に、どきっとした記憶があります。それまでは、自分たちが評価される最大の基準は、どんだけ勉強ができるか、まあ「学力」といったところですが、「実力」というのは、どうも、そうではなさそうですね。もちろん学力も大切かも知れませんが、もっと大きな、社会で通用する力、今風の言葉で言えば、「人間力」みたいなものかもしれません。

中学 2 年生の自分にとって、「無文句、作実力」という言葉は、「大人は実力で勝負するんだ」ということ、そして、校長先生は、この言葉を通して、私たちに、大人の世界を垣間見せてくれようとしていたのではないかと、今に思い出しました。

もちろん、当時の自分は、おそらくそんなことは考えていませんでしたが、少なくとも、自分の部屋に飾り、高校を卒業するまで、毎日、それを眺めて暮らしていたようです。そして、高校を卒業するときに、クラス担任の先生から、こんなことを言われました。君たちは、これから大勢の人達と出会うだろう。最初は、周りが皆、凄い人達に見えるかも知れない。しかし、君たちは実力があるんだから、全然、心配はいらない。その時、中学 2 年の立志式の日、校長先生からいただいた「無文句、作実力」という言葉は、今につながっているんだ、こういうことだったのかと初めて分かりました。

さて、今年のNHKの大河ドラマ「晴天を衝^つけ」は渋沢栄一が主役です。彼は、日本の実業界、ひいては資本主義の制度を設計した人物で、設立に関わった会社は約 470 社、それ以外に 500 以上の慈善事業にも関わり、後生、「日本資本主義の父」「実業界の父」と呼ばれています。

渋沢栄一の「論語と算盤」（算盤とはソロバンのことです。）という本の中に、「立志と学問」という章があります。それによると、志を立てるに当たっては、まず最初に、自分の長所を生かせる大きな志を定めるのがよい。これは、樹木の幹に相当するものである。その上に、樹木の枝や葉となる小さな志を立てるのである。小さな志の方は、状況に応じて、移り変わっていくこともあるが、大きな志は、一生涯を通じて変わらないことが大切である、と述べられています。

これは、一体、どういうことなのでしょう。このことを、私自身の体験に当てはめてみると、中 2 の時に校長先生からいただいた「無文句、作実力」という言葉から、私は、「将来、実力で勝負できる人間になろう」という大きな志を立てました。これは、樹木の幹に相当するものです。そして、それを実現するため、自分がやりがいを感じている勉強を生かせる「研究者」や「学校の先生」を目指して頑張ろう、という小さな志を立てました。小さな志は、その後、別の仕事の方が向いていることが分かったりすれば、変えてもかまわないわけです。こんな風に、一生涯に通用する大きな志を立て、それを実現するために小さな志を立てると、志を実現することができると、渋沢栄一は私たちに伝えているのではないかと思います。図で表すと、こんな風になるのではないのでしょうか。



最後に、私が中 2 の立志式の時に、校長先生からいただいた言葉のように、
今後は、私から皆さんに伝えたい言葉について、お話ししたいと思います。

まずは、これまで皆さんを支えてくれた様々な人達への感謝の気持ち、それから、皆さんをいつも見ていてくれる人、思ってくれている人が必ずいること、そういう人達とつながっているんだ、ということを、いつまでも忘れないでいてほしいと思います。

皆さんは、保育園や幼稚園、小学校、中学校と、ご家族に守られながら、少しずつ、見聞を広げてきました。皆さんにとっての社会が少しずつ広がっている、ともいえます。今までは、周りから何かをやってもらうことで、成長してきた面が大きいと思います。これから、大人になって行くに当たり、今度は、自分を育ててくれている社会に対して、どんなことで貢献ができるか、ということを考えて行動して欲しい、と思っています。

キーワードとしては、感謝と貢献です。このことは、皆さんが立てる大きな志を育てる土壌のようなものなのではないかと思います。これも図で表すとこんな風になります。



(図：さっきの図の地面のあたりの紙をめくると、「感謝と貢献」が出てくる)

是非、参考にしてください。

今日は、皆さんの先輩たちが 4 名来てくれます。一人はオンラインで参加してくれます。それぞれの先輩が、「立志からの 10 年」と題して、中 2 の立志式から現在までのことを話してくれます。どんな志を立て、それが今にどうつながっているのか、ぜひ、直接、聞いてみてください。

以上、皆さんの幸運と健康、そして輝かしい未来を期待して、立志式を記念しての校長の話とします。

令和 3 年 3 月 10 日

栃木県立佐野高等学校附属中学校 校長 青柳 育夫